

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	門司大里店舗(ホームセンター)新	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	2.3 /5		がんばろう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
-------	----------------	--	-----------------	--	-------------------	--

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.2	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.8	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4 スコア 3.4
部材の再利用可能性向上への取り組みにおいて、軽鉄下地工法より躯体と仕上材が容易に分別可能であり、内装材と設備のそれぞれを容易に取り外すことができる計画としている。		内装仕上材は更新必要間隔20年以上の材料を採用している。 給排水配管は耐用年数20年以上の材料を採用している。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 2.4	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.7	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 1
LCCO2削減率は19%		-	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 3
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 1.09 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.78 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	門司大里店舗(ホームセンター)新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市門司区上馬寄二丁目	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条地域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2020年1月15日
敷地面積	3,410㎡	作成者	芝田 蘭
建築面積	1,882㎡	確認日	2020年1月15日
延床面積	2,568㎡	確認者	中村敏男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
 ②建築物の取組み 81%
 ③上記+②以外の 81%
 ④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。	その他
Q1 室内環境	省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	LED照明設備を採用し、省エネルギー性能の向上に努めた。	Q3 室外環境(敷地内)
		視線を遮らない様な樹木やフェンスの配置することで防犯性に配慮した。
		LR2 資源・マテリアル
		LR3 敷地外環境
		適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
門司大里店舗(ホームセンター)新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							2.4
Q1 室内環境			0.40		-	-	2.4		
1 音環境		2.6	0.15	-	-	-	2.6		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	-	-	-			
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	-			
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-	-	2.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	-			
1 室温		3.0	0.50	-	-	-			
2 外皮性能		3.0	0.17	-	-	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	-	3.0		
3.1 昼光利用		3.0	0.50	-	-	-			
1 昼光率		-	-	-	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	1.00	-	-	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-			
1 昼光制御		-	-	-	-	-			
3.3 照度		-	-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.50	-	-	-			
4 空気質環境		2.5	0.25	-	-	-	2.5		
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	-			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-	-			
4.2 換気		2.0	0.30	-	-	-			
1 換気量		3.0	0.50	-	-	-			
2 自然換気性能		-	-	-	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	-	-	-			
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	3.1		
1 機能性		3.0	0.40	-	-	-	3.0		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	-			
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-	-			
1 広さ感・景観	売場の天井高は平均で3.60m以上	5.0	0.33	-	-	-			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-	-			
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	-			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	維持管理方法が大きく異なる床材は接近させていない。	4.0	0.50	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	-	3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	・床:塩ビタイル:20年 ・壁EP塗:20年 ・天井:化粧石膏ボード:30年	5.0	0.10	-	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を採用し、Eは使用しない	5.0	0.20	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-			
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-			
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	-			
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-			
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	-			

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高は3.90m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.78	3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄地下工法より躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2削減率 19%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場において十分なスペースを確保している	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	